

中心市街地に新たな複合交流施設

写真文化首都創生館建設、来年オープンへ

東川町文化芸術センターの南西側、旧東川小学校グラウンドの一角に、大雪山文化・家具デザイン文化・図書館的な機能、交流スペースを併せ持つ複合交流施設「写真文化首都創生館（仮称）」を建設することが決まりました。7月着工、来年3月完成予定で、早ければ来年夏ごろまでを目途にオープンを目指します。

鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造り平屋建て延べ床面積約2千460平方メートル。総事業費12億円で7月着工、来年3月完成予定です。昨年10月、プロポーザル方式で建物の設計コンセプトを募集し、その



後同11月写真文化首都創生館建設運営委員会（13人）を設けて5回の検討を重ねました。

図書館的な機能と、大雪山国立公園に関する資料展示の大雪山アーカイブス、世界の椅子と町内木工デザイン、家具デザイン展示、東川発の書籍と地場産品販売、交流スペースを持ち、一昨年にリニューアルオープンした町文化芸術会館（旧東川小学校校舎）と相まって複合機能を発揮します。

図書館機能としては、これまで文化交流館に蔵書している児童図書1万5千冊を中心として開架図書約3万冊を移設して約5万冊の開架図書スペースを設け、閉架書庫約2万5千冊分を設けます。

絵本の読み聞かせに便利な子ども室（床暖房室）、閲覧室、学習室、視聴覚コーナー、大雪山アーカイブスは、文化芸術交流館内の現スペースを

移動するか、または2カ所に分散展示するかを今後検討します。

世界の椅子展示コーナーは、現展示スペースはそのままに、貴重なコレクションを新コーナーに増設する計画です。ほかにスタジオ用スペース、体験プログラム室、ワークショップ室を設けています。

コンクリート打ちっぱなしの外壁に木質感をプラスする道産カラマツ羽目板材を取り入れる外観デザインとし、南面は全面ガラス張りとして、東川小学校の天窓デザインと同一イメージの天窓デザインを採用。たつぷりの自然採光に配慮しました。

館内は天井温風吹き出しの電気冷暖房寒冷地エアコン。広い吹き抜け空間を基本とし、南側、北側両サイドに主玄関口を設けて、北側出入口と文化芸術センターとの出入りをスムーズにするため、ひさ

しをつけて通路を設け、四季に係わらず両建物のスムーズな行き来が出来るように配慮します。

大雪山、家具デザイン、写真、日本語の各文化も網羅

6月13日、農村環境改善センターで建設に当たって町民説明会を開きました。

松岡市町長は「一定住人口、一時的に集まってくる交流人口、そして応援人口の3つを足したものが東川の人口。人口を維持し、サービスを低下させないようにするためには、中心市街地に多くの人が集まって交流人口を増やし、みんなの利益になる公益施設を造らなければならない。米、観光、工芸の文化を資源として魅力的なものにし、大雪山文化、家具デザイン文化、写真文化、さらに日本語文化を網羅した多機能の施設」「日



本語を学びに来ている留学生の人たちも地元の人と話をしたいと望んでいるが、町には今まで交流の施設がなかった」と複合施設の狙いに理解を求めました。

隣接する両施設一体となって多様な機能を発揮する運営を計画しているため、今後分かりやすい名称を検討することにしていきます。

外構工事は建物完成後の来年度に着手し、南側玄関にすぐ入れる身体障がい者用、救急用駐車場を設けます。旧東小グラウンドは、多目的に使える広場としてなるべく広く残すことにしています。

同月22日開かれた町議会第2回定例会で建設費予算が可決成立しました。